

式 辞

中京大学で学び、本日、ご卒業を迎えられた皆さんに、心よりお祝いを申し上げます。誠にありがとうございます。

ご卒業される皆さんを今日まで励まし、支えてこられたご家族やご親族の方々にも、深く感謝を申し上げますとともに、お慶びを申し上げます。

思えば、皆さんが中京大学に入学された4年前、2020年の春は、新型コロナウイルスの感染がまさに第一波のピークを迎えようとしている時期でした。3月にWHOがパンデミックだと表明し、時を置かずして東京オリンピック・パラリンピックの1年開催延期が決定しました。全国の小中学校・高校の一斉休校が続く中、4月に入ると政府による緊急事態宣言が発令され、ソーシャルディスタンス、新しい生活様式といった言葉が飛び交う中、社会全体がかつてない重苦しい空気に包まれました。

本学においては、感染拡大を防止して学生と教職員の安全を最優先するため、入学式はウェブによるメッセージ配信のみとし、春学期の授業はオンラインによる遠隔授業に変更する措置をとりました。教育の質と安全をいかに両立させるか、大学にとっても極めて難しい判断でした。さまざまな面から可能な限りのサポートを行うよう努めましたが、特に入学したばかりの皆さんにとっては、新たな学友と言葉を交わすこともままならない日が続き、さぞかし不安が大きかったことだろうと察します。入学前に思い描いていたキャンパス生活との落差を感じ、悔しく思われることもあったのではないかと思います。

2020年度の秋学期からは、当時の安村学長の英断により、多くの他大学に先駆けて原則的に対面授業を復活させました。そして昨年5月、感染症法上の分類が引き下げられたことで、長きにわたったコロナ禍はようやく平時に戻りました。しかしそこに至るまで、皆さんの学生生活の相当部分がコロナと共にあったのはまぎれもない事実です。

困難な状況下にあつて、皆さんは学業に、あるいは部活動に、実によく頑張ってくれました。この1年間に限っても、スポーツではインカレで女子ソフトボール部が10年ぶりの優勝に輝き、水泳部は女子が2連覇を果たすなど、各競技で日頃の練習の成果がいかに発揮されました。そうした晴れやかな場での活躍ももちろんのことですが、何にも増して、皆さん一人一人が、多くの先輩たちも経験したことのない逆境にくじけることなく、しっかりと中京大生としての本分を貫き通してくれたことを嬉しく思います。本日、卒業式というこの舞台に立っていること自体が、皆さんが大きな試練に立ち向かい、立派に乗り越えたという証しにほかならないのです。

梅村学園は昨年、創立100周年を迎えました。今年は中京大学の開学70周年にあたります。1954年（昭和29年）に中京短期大学として開学し、その2年後に四年制大学となった中京大学は、この70年間で延べ14万名を超える学部卒

業生と大学院修了生を社会に送り出してきました。本日をもって、皆さんも新たにその仲間に加わることになります。コロナ禍に屈せずに卒業されたことに大いに胸を張って、自らが選んだ道に進んでいってほしいと願います。

皆さんを待ち受ける世界は、多くの難題に直面しています。先行きに予断を許さないウクライナや中東の情勢は言うまでもありませんが、トランプ氏の返り咲きの可能性が取り沙汰されるアメリカ大統領選の行方や、喫緊の対策が求められる地球温暖化問題からも目が離せません。グローバル・サウスと呼ばれるアジア・アフリカの国々の発言力が高まり、国際的なパワーバランスにも変化が生じてきています。

これらはそれぞれ固有の背景を持つ事象ではありますが、かといって、同時代に起きている出来事がまったくの無関係ということはありません。領土問題、民族問題、政治、環境といったようにジャンル分けして見るだけではなく、根っこの部分で互いにどうつながっているのかという問いを立て、複眼的に見つめ直してみることも大切ではないかと思えます。

この1年余りで、チャットGPTに代表される生成AIの技術革新が凄まじい速度で進み、私たちの生活や働き方に大きな変化をもたらしつつあります。さまざまな国際的課題に対しても、AIは膨大なデータをもとに迅速に解析を行い、「最適」とされる解を導き出してくれるかもしれません。しかし、それがどんなに素晴らしいものであったとしても、現実社会において、それを実行に移すか否かの決断は、人間の手に委ねられます。複雑に絡み合った社会課題に立ち向かっていくときに必要不可欠なのは、AIを使いこなす能力ではなく、創造力、つまりクリエイティビティを持って自らの知性で考え、柔軟に対応していく力ではないでしょうか。言い換えれば、それこそが人間の叡智と呼べるのではないかと考えます。

人口減少の加速や政治的混迷など、国内でも課題が山積しています。ここからどのような針路をとっていくのか、日本社会は大きな転換点に立っています。どう進むにしても、すべての人にとって百点満点となる正解はありません。どこに力点を置いてエネルギーを投入していくべきか、私たち一人ひとりがしっかりと考えを持ち、明確に意志を表明していくことが極めて大切になってきているのです。

中京大学での学びを通して、皆さんには「自ら考え、行動することのできる力」は十分に備わっています。これからの社会生活においても、物事を人任せや前例任せにするのではなく、たとえ回り道になるにせよ、できる限り、自分自身で考え、状況判断するという心掛けを心掛けてほしいと願います。それがすなわち、主体的に社会の在り方に関わっていくということであり、皆さんが主役として大きく羽ばたける、新しい時代を生み出していくことにつながるのだらうと思えます。

創立 100 周年を経て新たな世紀に突入した梅村学園は、さらなる高みを目指します。中京大学は開学 70 周年に合わせ、新たな長期計画「NEXT10 2033」を 4 月から始動させ、全学一丸となって、さらなる改革を推し進めてまいります。校訓「真剣味」と、建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」を不変の理念としつつ、皆さんにとって、より一層、誇り得る母校として発展させていくことをお約束致します。

母校・中京大学での日々を忘れることなく、これからも常に学び続け、未知なるものに挑み続けていってください。時に厳しい局面はあるでしょうが、自分を信じて前を向いて歩いていけば、必ずや道は拓けます。10 年後、20 年後に、よりたくましく成長された皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

本日はご卒業、誠におめでとうございます。

2024 年 3 月 19 日

中京大学長
梅村清英